

《肥料の施肥例》

肥料はほとんど要りません。つるボケや品質低下を防ぐために極力チッソ肥料は控えましょう。連作も可能です。

◎元肥 (1㎡当たり)

おいしい菜園 → 10g

他に…トヨクween(石灰) → 80g

エスアイ加里 → 30g
(その他カリ肥料)

吟遊詩人(バーク堆肥) → 2kg

◎追肥 (1㎡当たりの1回の量)

おいしい菜園 → 10g

※ほとんど追肥の必要はないが、葉色が薄くなってきた時はごく少量の化成肥料を畝間に追肥するか、カリ肥料を施肥して土寄せする。



この肥料の特徴

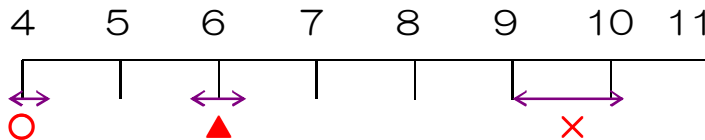
粟のような形状で水に溶いて液肥にもでき、土を荒らさない安心して安全な中性化成肥料。速効性だが元肥・追肥両方に使用できる。

さつまいも

▶特徴と栽培のポイント

さつまいもは、痩せた土地でも良く育ち、ビタミンCや食物繊維が豊富で、和洋どんな料理やデザートにもよく合います。栽培上も、暑さ寒さに強く、肥料も少量でよい上、病気にも強いので初心者でも比較的容易に栽培できます。学校行事などでよく用いられるのはその為で、収穫の楽しさもその理由の一つとなっています。

▶栽培カレンダー ○伏込 ▲定植 ×収穫



節から出る肥大化した物(根)がさつまいもとなる。右記のようにして採芽するか苗を購入し、下から3~4節くらいを土に斜めに埋めて定植していく(畝間は2m以上あけること)。約1週間で根が張り始める。乾燥する時は忘れずに水やりを…。収穫は定植から100日前後で、晴天時に掘り出し、3日ほど乾燥させると甘みが増しておいしくなる。

《さつまいもの種類》

●日頃スーパー等で良く目にしているベニアズマを始め、肥大性の良い干芋用品種タマユタカや、鳴門金時で有名な金時、また中まで紫色でアントシアニンが豊富なアヤムラサキ等、他にも沢山の種類があります。苗はなかなか手に入らなくても、種になる芋さえあれば以下の方法で芽だしさせ、栽培することも可能です。ぜひお試しを!

~苗作りと定植のコツ~

苗は、種苗店で購入するか、自分で芽だしさせて作ります。芽だしの方法はまず籾殻の中や堆肥をたっぷり入れた育苗土に伏せ込み、被覆(芽が出たらはがす)をします。地温は30℃前後が望ましいですが芽が出たら25℃くらいになるよう調整して下さい。育苗中の追肥も忘れずに…。やがて芽が20cmくらい(展開葉7~8枚)になったら、下葉を2枚ほど残して採苗します。

種苗店での苗選びもそうですが、節間がつまった太めの苗を選びましょう!

